

日本民俗学会 第70回年会 東京

第1回 サーキュラー

日本民俗学会第70回年会を下記の要領で開催いたします。本年は東京都世田谷区の駒澤大学駒沢キャンパスが会場となります。年会全体のテーマは、「**講** 研究の可能性 一人のつながりの追究に向けてー」です。

一般研究発表につきましては、多様なテーマによるご発表を歓迎いたします。

充実した年会をめざしますので、皆様奮ってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

一般社団法人日本民俗学会第31期会長 徳丸 亜木

主催 一般社団法人日本民俗学会

共催 講研究会

期日 2018年10月13日（土）・14日（日）

会場 駒澤大学駒沢キャンパス（東京都世田谷区駒沢1-23-1）

※近年、観光客が多く、宿泊施設不足が予想されますので、早めの予約をお願いいたします。実行委員会では、宿泊等の斡旋は行いません。

会場アクセス

- ・渋谷駅から東急田園都市線に乗り、「駒沢大学」駅下車。「駒沢公園口」出口より徒歩約10分。 ※急行は停車しません。
- ・自由が丘駅1番バスのりばから東急バス「駒大深沢キャンパス前」ゆきになり、終点下車。徒歩約8分。

※会場への経路図等は、第3回サーキュラーに掲載します。

※駒澤大学ウェブサイトの交通アクセスのページもご参照ください。上記以外のバス便についても記されています。

<https://www.komazawa-u.ac.jp/access/>

年会事務局

駒澤大学文学部地理学科 小田匡保研究室 気付

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

E-mail minzokugaku70@gmail.com

※連絡はなるべく E-mail でお願いします。

プログラム

10月13日（土）

- 9:00～ 9:30 理事会
- 9:45～12:00 評議員会
- 12:00～ 受付開始
- 13:00～16:00 公開シンポジウム
「「講」研究の可能性一人のつながりの追究に向けて」
- 16:15～17:50 研究奨励賞授賞式・会員総会
- 18:00～20:00 懇親会

10月14日（日）

- 9:00～ 受付開始
- 9:30～12:00 研究発表（午前）
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00～16:30 研究発表（午後）

※今年度の年会は、見学会を企画しておりません。

※開始・終了時刻は現時点での予定です。発表プログラムは、9月中旬に参加等申込者に送付する予定の第3回サーキュラーでお知らせいたします。

参加・発表申し込み

- ・参加・発表を希望される方は、オンライン申し込みフォームよりお申し込みください。
「日本民俗学会ホームページ」(<http://www.fsjnet.jp/>) → 「日本民俗学会第70回年会ホームページ」 → 「参加・発表申し込み」の順にお進みください。
- ・オンラインでのお申し込みは、2018年6月19日（火）24:00までに送信してください。
- ・オンライン申し込みをご利用いただけない場合は、同封の返信用葉書に記入し、切手を貼ってご投函ください。葉書の場合の期限は、2018年6月19日（火）必着とします。
- ・参加・発表の申し込みは、オンラインか返信用葉書かのどちらか一方でお願いいたします。できるだけオンラインでの申し込みをお願いいたします。
- ・所属の記載方法については、サーキュラー末尾の「所属の表記について」をご参照ください。
- ・出張依頼状が必要な方は、所定欄にチェックを入れて、宛先を記入してください。

※返信用葉書を、住所変更通知など年会業務とは無関係の連絡には使用しないよ

う、お願い申し上げます。

※お送りいただいた個人情報については、第70回年会に関わる事務においてのみ使用し、別の用途に使用することはありません。

※第2回以降のサーキュラーは、参加等申し込みをされた方のみにお送りいたします。サーキュラーは、年会ホームページにも掲載します。

参加費

		前払い	当日
年会参加費	会員（一般）	2000円	3000円
	会員（学生）	1000円	1500円
	非会員（一般）	—	3000円（当日受付のみ）
	非会員（学生）	—	1500円（当日受付のみ）
懇親会参加費	会員（一般）	5000円	6000円
	会員（学生）	2500円	3000円
	非会員（一般）	—	6000円（当日受付のみ）
	非会員（学生）	—	3000円（当日受付のみ）
発表要旨集代	会員	1500円	2000円
	非会員	—	2000円（当日受付のみ）
14日弁当代		700円	—（当日販売なし）

※10月13日（土）昼は大学内の食堂やコンビニが営業していますが、14日（日）は閉店しています。会場周辺には飲食店がいくつかありますが、大勢の人数に対応できる場所はなく、昼食弁当の事前申し込みか持参をおすすめします。

※年会参加費・懇親会参加費・発表要旨集代・14日弁当代ともに、納入期限は8月17日（金）です。期日にて振込み口座を閉鎖いたしますので、それ以降は年会当日に当日料金でお支払いください（ただし、弁当の当日販売はいたしません）。

※一度納入いただいた参加費等はいかなる理由があっても返却いたしません。あしからずご了承ください。

※納入方法は、7月中旬に参加等申込者に送付する予定の第2回サーキュラーにてお知らせいたします。

発表要旨集

- ・今年度の年会では、発表要旨集を参加費と別料金にします。従来のように参加費だけ納入しても、年会当日に要旨集は配付されませんので、要旨集が必要な方は、要旨集の代金（前払い1500円）も合わせて振り込んでください。
- ・年会当日も、要旨集を若干部数販売いたしますが（当日料金2000円）、売り切れる可能性もありますので、要旨集の購入を希望される方は、必ず期限までに

要旨集代を納入してください。要旨集購入の申し込みのみで、代金が期限までに納入されていない場合は、要旨集の取り置きはいたしません。

- ・年会には参加されないが、要旨集の購入を希望される方は、要旨集のみお申し込みのうえ、代金を納入してください（第2回サーキュラーで指示する送料をご負担いただきます）。年会終了後、要旨集をお送りいたします。
- ・要旨集の内容は、年会より前（9月）に年会ホームページ上でPDFファイルで公開します。年会終了後も当分の間、掲載を続けます。

研究発表形式

一般発表

- ・発表20分・質疑応答5分・移動5分を1ユニットとします。
- ・一般発表を行う方は、オンライン、もしくは同封の返信用葉書にてお申し込みください。
- ・発表内容は、日本民俗学会および関連する諸学会等において、未発表のものに限ります。重複発表が判明した場合は、参加費の納入の如何にかかわらず、発表をお断りします。
- ・備え付けの機材は、PC（Windows）とPC用プロジェクターです。機材の使用を希望される方は、オンライン申し込み画面または返信用葉書の所定欄にチェックをしてください。
- ・発表は日本語でお願いします。

グループ発表

- ・統一テーマのもとで4名以上の発表者からなるグループ発表を受け付けます。うち一人をグループ発表の代表者としてください。
- ・グループ発表の場合、代表者の方だけでなく、その他の発表者の方も「研究発表申し込み」を行っていただきます。オンライン、もしくは同封の返信用葉書にてお申し込みください。
- ・グループ発表の時間枠は120分となります。枠内の時間配分は代表者にお任せいたします。
- ・グループには適宜、司会を設定していただくことができます。司会自体の登録は必要ございませんが、プログラムへの記載もいたしません。なお、学会側からの座長の配置はいたしません。
- ・グループ発表で使用できる機材は一般発表に準じます。

※個人発表とグループ発表、両方での発表はできません。

※発表要旨は、年会ホームページ上でウェブ公開されます。

発表資格

- ・第70回年会における発表資格条件は、2018年5月末日時点で2018年度の会費

を納入済みの会員および名誉会員です。

※新入会員については、2018年5月13日開催の理事会で入会を承認されている必要があります。

- ・期限（8月17日）までに年会参加費の納入および発表要旨の提出がない場合、発表は自動的にキャンセルとなりますので十分ご注意ください。

書籍販売の申込み

会員および出版社の方が会場で書籍の販売を希望される場合、年会ホームページに掲載する「書籍販売登録票」にご記入の上、9月7日（金）までに年会事務局あてに申し込んでください。具体的な申し込み方法は、第2回サーキュラーにてお知らせいたします。

今後の日程

オンライン申し込み期限 6月19日（火）24：00

返信用葉書郵送期限 6月19日（火）必着

第2回サーキュラー 7月中旬発送予定（参加等申し込みの方のみ）

内容：参加費等納入方法、その他年会参加に関する連絡事項、発表要旨の提出方法、発表要領、書籍販売申し込み要領、出張依頼状の同封（希望者のみ）

参加費等納入期限 8月17日（金） これ以降は当日料金になります。

発表要旨提出期限 8月17日（金）

書籍販売申し込み期限 9月7日（金） 書籍販売登録票提出

第3回サーキュラー 9月中旬発送予定（参加等申し込みの方のみ）

内容：会場案内、発表要領、各発表会場プログラム

公開シンポジウム

「講」研究の可能性 一人のつながりの追究に向けてー

趣旨

現代社会は、ある面で人のつながりを捉えにくい社会である。それは、広域に展開する交通網の整備が地理的な制約を取り払い、昨今の急激な情報技術の高度化が対面すら必要としないあらたなつながりをもたらしていることに象徴される。こうした多様化する人のつながりを改めて主題化することは、現代的な意味を持つテーマであるといえよう。

人のつながりについては、民俗学も地域社会をフィールドとした多くの成果がある。なかでも櫻井徳太郎は、研究課題の一つに「講的人間結合の本質」の解明を挙げ、講を事例としてその結合そのものを主題化しようとした。しかし、その作業は課題を示すだけにとどまっている。本シンポジウムではこの主題を継承し

ながらも、対象を講の周辺、講以外の集団にまで広げ、人間結合、人のつながりのあり方を考察したい。

講の総合的な把握は困難さがつきまとう。構成員やその性格は多様で、かつ一つの講集団が性格を変化させながら存続していく例も多いからである。しかも講集団は必要に応じて結ばれ、必要がなくなれば解かれる性格も持つため、内部のつながりは緩やかなものとなる。本シンポジウムでは、この講集団のつながりの緩やかさにあえて注目をしていきたい。人のつながりが緩やかで、固定化することがないままに集団の分析は、多様化する人のつながりを視野に含むことができ、さらに緩やかなつながりだからこそ社会に活用される様をも分析の俎上に乗せることができるのではないか。そしてこのつながりの特徴を注視する姿勢により、講集団だけにとらわれない視点から、櫻井が解明しようとした「講的人間結合の本質」の追究が可能になるのではないか。

本シンポジウムでは講の持つ人のつながりの緩やかさ、講集団そのものの緩やかさに着目して「講的」な人のつながりを問う方向性を示し、「講」研究の可能性を探ってみたい。

日時 2018年10月13日（土）13:00～16:00

会場 駒澤大学駒沢キャンパス

パネリスト等

パネリスト	川又俊則（鈴鹿大学）	
	菅根幸裕（千葉経済大学）	
	戸邊優美（埼玉県立歴史と民俗の博物館）	（順不同）
コメンテーター	福田アジオ（東京都）	
	三木一彦（文教大学）	（順不同）
コーディネーター	高木大祐（成城大学民俗学研究所）	

プレシンポジウム

今年度の年会では、プレシンポジウムを開催いたしません。

見学会

今年度の年会では、見学会を開催いたしません。

所属の表記について

すでに会誌『日本民俗学』や日本民俗学会ホームページに掲載してお知らせしておりますとおり、第29期理事会は、2014年7月13日に「日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明」を公表しております。

この声明にもとづき、第 67 回年会から、参加登録の際の記名、名札、発表要旨集、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、各人の帰属意識に基づいて主体的かつ自由に表明していただくことになりました。

参加登録の際の「所属」欄をはじめ、発表要旨集、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、たとえば、つぎのようにお願いいたします。なお、所属・肩書き・立場性の表明は、原則として一人一つでお願いします。

例：山田 太郎（〇〇市立博物館）、山田 花子（〇〇大学大学院生）、山田 太郎（〇〇民俗学研究会）、山田 花子（〇〇県）、山田 太郎（NPO 法人〇〇）、山田 花子（自営業）、山田 太郎（株式会社〇〇）、山田 花子（会社員）、山田 太郎（インディペンデント・フォークロリスト）、山田 花子（〇〇大学非常勤講師）など

<参考>

日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明

日本民俗学会は、多様な社会や組織に帰属し、多様な帰属意識を有する人びとによって生み出され、発展されてきた歴史をもつ。この会員の属性、帰属意識の多様性は、現在でも顕著であり、日本民俗学会の大きな特徴となっている。私たちは、この会員の属性、帰属意識の多様性を尊重する。

さらに私たちは、日本民俗学会の活動の場において、会員が自己の所属、肩書き、立場性等を、各人の帰属意識に基づいて主体的に表明する自由を保障する。

2014 年 7 月 13 日

第 29 期日本民俗学会理事会

